

平成 29 年度 山北高校 学校評価

視 点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価 ( 3 月 6 日実施)	総合評価 ( 3 月 23 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①これまでの教育成果をふまえ、よりきめ細かな学習指導のできる、教育課程と学習環境の充実を進め、学力の向上を図る。 ②自ら学ぶ力を育成するため、個々の教員の授業力・教育力の向上を図る。	進路別クラス編成を推進し、多様な選択科目に対応できる教員のスキルアップと、生徒自らが選択し学習する能力を身に付ける。	①進路別クラス編成(アドバンスクラス・普通クラス)やスポーツリーダーコースの特徴を明確にする効果的な学習指導を行う。 ②校内研修を計画的・組織的に進める。生徒の主体的な学習活動を推進する授業改善に取り組む。	①生徒の進路希望と進路実績を比較し適正であったか。 ①②生徒による授業評価において「当てはまる」が全体の80%以上になったか。 ②職員による相互評価を行い、検証から改善策を作成したか。	①クラス編成の特徴を明確にして生徒の進路希望実現に向け学習指導を行った。 ②生徒による授業評価は80%を超えない項目もあったが授業改善に活用した。6月の授業見学期間では授業の相互評価をし、さらなる授業改善に向け11/24に授業力向上研修会を実施した。	①アドバンスクラス、スポーツリーダーコースの目的を学校全体で共有し発展させる。 ②今後も職員全員で授業改善に取り組んでいく。	①アドバンスクラス等の活用を期待する。 ②授業改善への取り組みを今後も続けることを支持する。	①アドバンスクラス等編成の目標について年間を通して検証し、来年度へ向けての提案と具体的準備を始めた。これを軌道に乗せるためより一層の行動と認識の共有が課題である。 ②11月に実施した授業力向上研修について評価し、今後、より効果的に実施するための具体的な方策が課題である。	①生徒の学習指導と進路指導をより効果的に行うために外部教育機関を活用し、より生徒の意識も高めていく。 ②29年度から始めた新たな授業力向上のための研修は、丁寧な振り返りと改善をカリキュラム開発グループが中心となっていってPDCAサイクルを進めていく。
2 生徒指導・支援	①『一人が一校を代表する』という考えのもと、規範意識や基本的生活習慣の定着を図り、教育相談体制を充実させ、『いじめ問題』等への迅速かつ適切な対応を行う。 ②部活動・委員会活動を通して、人間力、自主性、実行力、リーダーシップ等の育成を図る。	①生徒一人ひとりが生き生きと学校生活の中で社会に貢献する心や他人を思いやる心を育てる。 ②特に委員会活動の組織化・活性化により、将来の社会生活に備えた主体的な生活訓練を行う。	① ・定期的な学年集会等を通して、自己の規範意識や自律心の醸成を促し、学校全体の取り組みとする。 ・教育相談、個別支援体制やいじめ防止に対し、研修を通じて職員全体への周知と能力の向上を図る。 ・心身の健康や生活習慣を自主的に管理できる能力を育成する。 ②評議委員会の組織作りに取り組む。	① ・学年集会実施数と指導内容が適正であったか。 ・全体研修やケース会議の実施回数や研修内容が適正であったか。 ・生徒のアンケートでいじめがゼロであったか。 ・健康課題の把握と指導状況は適切であったか。 ・特別指導の件数がゼロになったか。 ②本部役員、評議員、各種委員長、部長会代表をメンバーとした評議委員会による生徒会活動の計画、部活動予算などを審議し決定したか。	①学年集会は毎月実施した。全体研修は人権、AED等必要に応じて実施した。いじめアンケートでは5名の生徒がいじめられているという意識があるとの結果が出たが、担任の面接を実施し大きな問題にはならなかった。特別指導は5件あった。 ②評議委員会を立上げ、生徒会行事、特に山高祭や部活動予算編成(2月下旬)に関わる機会を作った。	①来年度以降も学年集会は毎月実施する。引き続き規範意識の醸成を図る。いじめに関しては絶対に許されないことを引き続き指導する。来年度も特別指導ゼロを目指す。 ② ・評議委員会のメンバーである各種委員会の委員長が概ね3年生であることや部長の代替わりにより、部活動予算編成(2月下旬)に関わる機会を作った。 ・年度当初の各種委員会の委員長、副委員長の選出方法を予め提示する。	①いじめ問題の大小の線引きは難しい。特に人間関係の課題については場合によっては第三者の活用もある。今回の調査の結果出てきた生徒の対応についてはできていないと報告があり、安心して学校とで話題とすべきと考える。 ②評議員はやってみてこれから改善することを一つ一つ実施してほしい。	①規範意識の醸成は成果を見せているが、一度途切れると後が続かないので引き続き根気よく取り組んでいく。 いじめについてはアンケートのみならず、今後もあらゆる機会にアンテナを張って小さな芽を見つけ、対応ができるようにする。 ②評議委員会の取組を始めることができたが、部活動予算の作成活動に課題が残っている。	①学年集会は引き続き定期的に行う。全体で育成する部分と個々の対応とのバランスを取りながら、生徒の学校生活の安全を担保し、安心して学習活動が展開できるよう、引き続き、緩むことなく生徒の状況把握と規範意識の醸成に取り組んでいく。 ②評議委員会の取り組みについては年度当初の選出時にあらかじめその内容を明示し、より適切な選出を促す。
3 進路指導・支援	生徒一人ひとりの進路希望に応じたきめ細かなキャリア教育の実践を図る。	3年間を見据えキャリア教育を計画的に推進しきめ細かな指導体制を整え、生徒の自己実現を支援する。	・FOMの狙いを明確にし、分野別進路ガイダンスを充実させ、進路決定の支援を行う。 ・進学補習や長期休業中の講習、公務員対策講座を充実させ、生徒のニーズに対応できる体制を整える。 ・大学や地域企業との連携を通して「生きる力」の育成に努める。	・一般受験による合格率向上。 ・年度末における進路未決定者0名を目指す。 ・就職希望者全員内定を年内に済ませる。 ・進路に向けた講習の参加者数が延べ100人以上になったか。 ・公務員試験合格者数増加(昨年度3名) ・大学セミナーが実施できたか。 ・インターンシップへの参加者数が増加したか。(昨年度21名)	・一般受験人数は少なかった。 ・就職希望者の年内全員内定は達成できなかった。 ・講習の参加者は土曜日の進学講習と夏期冬期講習を合わせて延べ89名であった。 ・公務員合格者数は3名、合格先延べ数は6で昨年の4を上回った。 ・文教大学による大学セミナーを実施できた。 ・インターンシップ参加者数は27名で昨	・情報提供の充実を行うに取組む。 ・生徒に合わせたきめ細かな就職指導を今後も継続していく。 ・部活動との兼ね合いもあるが、参加した生徒が達成感や充実感をもてるような講習の実施を今後も継続していく。 ・公務員対策講座を継続して実施していく。 ・大学セミナーにより進学意欲の向上を今後も図っていく。文教大学以外との連携も検討していく。	・進路選択をする上で参考となる点などのアドバイスをより多く発信してほしい。 ・基礎学力の定着が就職、進学ともに効果的であり、そのための自主学習の重要性について理解できた。	・公務員合格者は増加したが、進路情報提供については生徒・保護者のニーズをより確かに把握しようとするのが課題となっている。 ・進路に必要な学力の定着が更に求められている。  ・大学セミナーは定着してきたが、実施する大学が固定化しつつある。	・進路情報提供については生徒・保護者のニーズに合ったものをより多く提供できるように丁寧なリサーチが必要である。 ・外部教育機関を活用して生徒の学力や進路意識を分析しより実践的な進路指導を展開する。  ・大学セミナーは文教大学についても検討していく。 ・インターンシップにつ

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月23日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
						年を上回った。	・インターンシップの意義を生徒に周知させ、より多くの生徒が参加するよう促していく。		・インターンシップ参加者は増加した。今後はさらに目的意識をもって実施できるようにしたい。	いては丁寧な説明と勧誘を行う。
4	地域等との協働	地域の意見を積極的に取り入れ、地域に開かれた、信頼される学校づくりを推進する。	・地域の方々との交流の機会を増やし、学校から適切に情報を発信し、開かれた学校づくりの推進のために寄与する。 ・保護者や卒業生との交流を深め、学校運営の充実を高める。	・地域連携の継続的な充実を図り、より効果的に推進していく。地域と学校が十分な意見交換をし、相互理解を深めその意義や成果を地域に発信する。 ・地域の幼小中高間の交流を進め、相互の理解と連携に努める。 ・保護者・地域・同窓会などの複数の組織間の連携を深め、より開かれた学校作りを行う。	・地域活動への参加回数10回以上、学校説明会来校者総数1300名以上、部活動実績の把握と情報の即時発信、HPの更新回数100回以上、アクセス数8万pv以上 ・ボランティア活動によって地域貢献度が高まったか。(活動報告書等) ・保護者の文化祭協力者は100人以上、マラソン大会の協力者は40人以上になるように学校側から行事の発信力を高めたか。	・HPは日々更新を目標に頑張りアクセス数は59,000pvとなった。 ・タウンニュース紙に弓道の活躍が掲載された。 ・オープンスクールは304名来校で昨年より微増した。 ・第1～3回学校説明会には計474名が来校。来場数は155人減となった。 ・中学主催進路学習会(足柄台・山北・白鷗・千代)に参加した。鴨宮中と城北中が来校した。 ・保護者の文化祭協力者は115名、マラソン大会の協力者は60名を超え、保護者との協力関係がより強まった。	・学校行事、他校の説明会日程等を勘案しながら、多くの中学生・保護者の方が本校に来校できるように説明会等日程を策定し、これまでの取り組みを継続・発展させていきたい。 ・PTA常置委員会以外の保護者の学校行事参加を増やしていく。 ・地域との防災関係の連携を強化していく。 ・PTAと学校との信頼関係がある。	・地域との協働については生徒が固定化されないような工夫が必要。最初は本意ではなくても継続していくことが大切。動員も視野に入れてはいかがかと考える。 ・PTA活動のさらなる協力を求めたい。 ・防災訓練にも保護者の参加を募りたい。	・地域に根差した学校の伝統の下、地域から信頼される学校づくりは進行しているが、より一層の積極的な取り組みが期待されている。特に、防災、地域清掃活動などが具体的な取組として提示された。	・地域防災の協働については学校行事との日程の調整が困難であるが、生徒の防災意識を高めることも大切であり、今後学校行事への組み入れも視野に入れて検討していく。 ・地域清掃活動は中学校とのコラボレーションを積極的に検討していく。
5	学校管理 学校運営	①教職員の計画的な人材育成、個々の資質・能力の向上を図り、学校全体の教育力の向上を目指す。 ②重点課題総点検結果を検証し、事故・不祥事防止の徹底に努める。 ③県立高校改革に基づいた、学校運営を推進する。	①校内研修を計画的・組織的に取り組む。 ②重点課題総点検結果を検証し、事故・不祥事防止の徹底に努める。 ③学校のミッションを全職員に周知し、学校全体の取組とする。 ④生徒・職員の防災意識を醸成し、学校の安全性を高める。	①計画的な校内研修を行い、特に新採用教員をはじめとする経験年数の少ない教員の資質・能力の向上を図る。 ②重点課題総点検結果を踏まえて、職員への啓発活動を計画的・組織的に展開する。 ③平成30年度入学生の教育課程の作成を行い、学校の教育姿勢を明確にする。 ④多様な防災訓練を行い、防災に対する意識と技能を高める。	①研修内容とその満足度が高いか。(アンケート) ②事故・不祥事発生回数0回となったか。 ③職員の教育活動の取り組み状況、教育課程を学校説明会などで中学生や保護者に周知できたか。(アンケート)	①年間2回、生徒による授業評価を実施し、その分析と改善を生徒及び職員に配付した。11/24に授業力向上研修会を実施した。 ②成績処理の流れを、成績処理支援システムを中心としたデータ管理及び処理にすることにより、入力ミスは皆無となった。 ③平成30年度入学生の教育課程を作成し、職員の共通認識のもと、新たなカリキュラムを学校説明会等で周知し、理解を得た。 ④DIG研修など職員、生徒が取り組み、防災意識を高めた	①授業改善の意識を職員全体に定着させるには継続していくことが必要である。今後も職員全員で授業改善研修に取り組んでいく。 ②次年度も多少の修正を加えながら今年度同様の成績処理を行う予定である ③平成30年度入学生が2年生でスポーツ系を選択するための指導のありかたと、3年生での自由選択の内容の精選。 ④地域との合同防災訓練の在り方を検討する。	①、②、③保護者の意見に耳を傾け、真摯に対応した学校運営の姿勢を評価する。 ①教職員の大幅な異動への対応については理解できる。 ④防災についてはより一層の取組を期待する。	①経験の少ない教員の研修は実施できた。今後のバランスのよい人材配置を実現するため、計画的な人材育成、将来を見通した人材配置を実施することが急務である。 ②引き続き事故・不祥事については予防のための研修、日常の点検のほか、早期の発見とより適切な初期対応が望まれる。 ③平成30年度の教育課程は学校のミッションを軸に作成した。 ④昨年度から変更された学校行事日程と防災訓練との整合性が課題となっているが今年度いくつかの提案がなされた。今後はより現実的で具体的な計画が必要である。	①組織全体が人材育成の必要性を理解し、協働して行えるよう、研修の計画から振り返り、改善に至るまで日常の教育現場に活かす視点で改善する。 ②個人情報の色紙使用、シュレッダーの制限時期の設定などのハード面と、普段からの情報収集を心がけたソフト面との両面での対応を行う。 ③引き続き学校のミッションを軸にぶれない教育課程を作成する。 ④来年度はコミュニティスクールが開始されるが、この中に「防災安全部会」を設置する計画である。